

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 21 日（月）13 時 55 分～15 時 37 分

場 所：南角田公民館

出席者：5 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【自動車運転免許証の自主返納支援について】

町民：

運転免許証の返納者が結構いる印象だが、市街地の人が多いのか。

副町長：

市街地の方が 65%で、北部・中部・南部それぞれ 10%程度。やはり市街地の割合は多い。

町民：

家族（高齢者）の運転免許証を返納させたいけれど、地方では移動手段がないので返せないのが現状。しかし、高齢者ドライバーのいろいろな事件や事故を見ていると、他人事とは思えず心配なところがある。病院の通院でどうしても車が必要になるが、毎回送り迎えできるかと言われればそれも難しく、車がないと生活できない状況。

町長：

83 歳になる親が三笠市に住んでいるが、買い物や通院は車を使っている。来年ぐらいには返納させないといけないのではと考えているが、車がないと出歩けないため、なかなか難しいのが実情。今回は免許返納を意識していただくための取り組みだが、全てを賄っていくのも難しい。

【栗山赤十字病院について】

町民：

日赤病院のアンケートの回答率が1割しかないのは、どうなのか。1割の人の意見で決めるのはどうかと思う。

町長：

統計的には、10%程度の回答が得られれば問題ないと言われている。この10%の意見を参考にさせていただくが、この意見のみで決定するわけではない。

町民：

もう少し精度をあげるような、2〜3割の回答がもらえるようなやり方はできないのか。

町長：

設問が多く、答えづらかったという問題はあったかもしれない。現在、栗山赤十字病院改築等検討委員会の中で議論をしており、方向付けをしたいと思っているが、そこで決定するのではなく、それからの町民の方との議論が大切だと思っている。アンケート結果に基づいてすぐに決定とはならない。

町民：

アンケートに回答していない人は、極端に言えば、日赤病院を当てにしていない、どうなっても構わないと思っているのではないかと。日赤病院に救急で運んでいっても、ここでは何もできないから岩見沢市に行ってくれと言われたこともあり、中途半端なのではないかと思った。費用対効果を明確にして、線引きをすることも必要だと思う。これから人口も税収も減るのに、日赤病院を維持していく必要があるのか。広域で病院をやれる方が良いのではないかと。立派な病院を作っても将来的に維持できないと思うし、後世に負担を残すのはどうかと思う。

町長：

現在日赤病院は136床あるが、人口減少が進み患者数も減少するため、建て替えで同じ病床数が必要とは思わない。診療科目も含めて、どの程度の医療水準が適切なのかを議論していく。最も重要なのは、町の財政計画との照合。町の財政範囲の中で医療水準を保っていけるような施設を考えること。お金がないのに大きな病院を作ってもしょうがない。しっかり議論をして方向付けをしていきたい。

福祉総括：

今回のアンケートは、1戸ずつ抽出しDMを送付する方法もあったが、世帯ごとに回答をいただきたく、広報紙に折り込みをした。今回のアンケートでは厳しい意見が多く、しっかり考えて出してくれた方が多いのではないかと。まちづくり懇談会でも、栗山町に病院はなくてはならないという方もいれば、広域で連携して他の町に拠点病院を作った方が良いのではないかと、という方もいる。委員会の中でもしっかり議論をしてい

きたいが、日赤病院の議論は既に7、8年やっていて、いまだに結論が出ていない状況。耐震問題や老朽化から、早急に方針を決めていかなければならない。方向付けをして、しっかり住民の方の意見を取り入れ、本当にそれで良いのか議論していく。

南空知は札幌が近く、患者も札幌市を向いているため、1市4町で1つの方向で進んでいくのはなかなか厳しい状況。財政面や医療水準に関しては、こういった場で直接お話しさせていただく方が良いと思っている。今後ともご意見をいただきたい。

町民：

結構、昔から議論されているが、いつ結論を出すのか、期限を決めていないのか。耐震の問題もあり、このままズルズル行くのは問題だと思う。

町長：

これまでは財政的な問題もあり、結論を出せないでいたが、栗山赤十字病院改築等検討委員会でこれまで議論してきたことをもとに結論を出していく。早い段階で方向付けしないと、その後も7、8年かかるため、早く決めなければいけない。そのスタート段階となる方向付けを今年度中に行いたい。入院通院患者は8割が町民なので、最優先課題として進めていきたい。

町民：

栗山町は都市部が近いので、動ける人は大きな町に行くから難しいのではないかな。

福祉総括：

診療科もある程度確保できているため、高齢者を中心に、町民が多く通院している実情がある。

【外国人観光客への対応に関して】

町民：

ロードバイクに乗ることがあるが、外国人の自転車乗りを見かける。町として外国人向けに何かPRしていくことがあればと思う。通りすがりの町ではなく、空き店舗を利用するなどして、何かあれば良いと思う。

町長：

現在、外国人向けとしての活動は行っていないが、若者定住推進課で、若手職員がSNSなどで積極的に情報発信している。地域おこし協力隊などもcafe&barを経営するなど、若い方々が魅力を発信している。外国人は自分でSNSやホームページを見て訪問してくれることもあり、文化の違いから、こちらが想像する以上に興味を持ってくれることがある。今後、情報配信を充実させていきたい。今後、もっと外国人観光客が増えれば、例えば役場に相談窓口を作るなど対応を考えていきたい。

町民：

この間はドイツの方が自転車に乗っていた。外国人を結構見かける。

町長：

これから外国人材は労働力も含めて必要になってくる。将来の日本人口減少に伴い、外国人の力が必要になってくる。町にも多くの外国人が定住する可能性がある。

【情報インフラに関して】

町民：

光回線の整備はどうなったのか。

町長：

南部地域に光回線を繋げる説明会を開くなど、これまで進めていた経過があるが、NTTが断念して、話が止まっている。戸数の問題があり、これ以上話が進まないような状況。町が主導するしか方法がない。

副町長：

NTTとしてはある程度の利用者数が必要であり、全体として数が足りなかった。

町民：

南角田だけであれば、最低利用者数を大きく超える利用希望者がいたはずである。光回線を引いていくときに、経由する地区が希望せず、その先で希望する地区があったとして、そこで利用者数を確保できれば光回線を引けるかどうか聞いたことがある。その時は、現在の電線から分岐するだけで回線を引けるため、経由する地区に光回線を引いていなくても対応できるということを聞いた。

副町長：

こちらで把握している状況だと、全体での戸数が足りず、NTTに最終シミュレーションをかけてもらっている状況。

町民：

回線で希望する地域だけでも光回線を繋げてほしい。何をするにもホームページを見てくださいなどとなっているが、ISDNがサービスを終了するなど、パソコンがあっても光回線がないとどうすることもできない。電気や水道と同じインフラとして考えてほしい。

町長：

南部の別な地区でも同じ意見が出ている。町内で情報格差があってはならないと思っているが、お金がかかる問題であるため、NTTにさまざまな料金シミュレーションをしてもらっている。

町民：

本当に困っているので、ぜひ前向きに光回線をお願いしたい。もう光回線は当たり前の時代になってきている。

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院の患者数の話に戻るが、数年前の通院が年間 5 万 4000 人。その中で町民が 3 万 8000 人で約 75%。こういった状況を踏まえて、町民に必要な施設ではないかと思う。

町民：

病院は、町民の健康や命を守るということを考えれば、採算だけを追っていくのは少し乱暴だと思う。ある程度、財政がきつくても、町民のケアをする部分はどこかで必要だと思うし、そのバランスを探っていく必要があると思う。

町長：

そのとおりだと思う。高度な治療は岩見沢市で受けるとしても、最低限の医療を町内で受けられるようにしたいと思っている。

町民：

とっさのときに町内に病院があって、そこで守られる命があるかもしれないし、薬を処方してもらい、診断してもらえるのは安心だと思う。

町長：

日赤病院の救急に対し、厳しい意見がある。そこは日赤病院に改善してもらいたい。

【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校も大変な状況にある。

町民：

学校は厚生労働省の病院再編のように、閉校を迫る、広域で統合しろ、といったような圧力はないのか。

教育長：

1 学年 40 人なら 1 クラス、10 人を切ったら廃校にするという基準はある。来年度は、町全体として地域に根差した学校づくりを目指していることで、道教委でも 2 間口を維持してくれたので、何があっても 41 人を超えて 2 学級を維持しなければならない。ある程度の規模がなければ、部活動を含め、子どもたちがやりたい活動ができないため、維持していきたい。

町民：

子どもの数が減っているから難しいのでは。2 間口を維持したが、40 人を下回った場合はどうなるのか。

教育長：

もし 1 学級になってしまえば、教員数を減らされる。今年度は 1 学年のみだったため、経過措置として 1 人しか教員削減はなかったが、来年度も 1 学級であれば、2 学年が 1 学級になってしまうため、教員数は削減される。岩見沢市でも人数が減っており、定員割れが出ている。

町民：

定員割れが多くなり、誰でも願書を出せば入れる、といったことになれば困ると思う。

教育長：

岩見沢市の高校でも学級数が減らされ、市内だけでは生徒数を確保できないため、栗山町からも生徒が入学している。しかし、ここ数年で大きな自治体に集約していくというよりは、核となる学校を作っていくという方向に指針が変わった。子どもを集めるような営業をしていくことも必要になってくる。

町民：

営業活動をして、子どもが来たいと思うような学校の魅力づくりはすごく難しいと思う。普通科だと、将来のビジョンが見えてこない子どもや親が多いと思う。卒業生がこういうところに就職したとか、簿記など資格を取ったとか、そういう目標のようなものがないと難しいのではないかな。

町長：

文部科学省の動きとして、昔は高校に入ってから次のことを考えようという方向だったのが、今は、高校から専門科に進み、将来につながる学びをしていこうという方向にシフトしている。地域の特色ある学校づくりを考えなければならない。

町民：

高校に入ったらすぐに 3 年後の進路をどうするか聞かれるような時代で驚いている。

教育次長：

栗山高校の卒業生 61 人の進路は、今年、国公立大学に 1 人合格した。進学者 43 人、18 人が就職した。大学への進学は、道内の私立大学が多い状況で、進学する生徒がだいたい半分になっている。町として資格取得など支援を行っているが、入学者増にはなかなか結び付いていない。少年ジェットで栗山高校枠を設けるなど、入学してくれた生徒への支援をしている。

町民：

南角田は、栗山高校に通学するための交通機関がない。小中学校はスクールバスがあるが高校はない。親がバス停まで送ったりするから、岩見沢市に行く場合と変わらなく

なる。高校生は規則正しく登下校しないし、部活動をすれば帰る時間もばらばらで交通機関がない、寄り道する場所もないし、寄り道できないといった状況は、子どもも倦厭すると思う。

町長：

今は、バスは滝下線のデマンドしかなく、朝は9時からしかない。通学には不便な状況かもしれない。

町民：

高校に通うのに、わざわざ交通手段を手配しなくてはならないのは大変。高校入ってすぐにバイクの免許を取り、バイク通学できれば良いのではないか。

【来年の懇談会に関して】

町民：

来年の懇談会について、昼間は農作業があるので、できれば遅い時間をお願いしたい。

町長：

来年は遅い時間に開催する。